

需要を重視し「かぼちゃ」の生産に意欲

2本蔓仕立ての同一方向伸長により収穫位置を固定化

農事組合法人たなかふぁーむ（七尾市）

水稲以外の主な園芸作物等



園芸作物導入の経緯等

- ◆ 野菜の産地化を目指すため需要がある「かぼちゃ」に着目し、令和3年産から栽培を開始。令和5年度に発足したJAのかぼちゃ部会で会長に就任。
- ◆ 水田面積18.9ha、うち飼料用米7.2ha、かぼちゃ70a、中島菜等20aを栽培。
- ◆ 主な労働力は、法人構成員3名のほか臨時従業員3名。



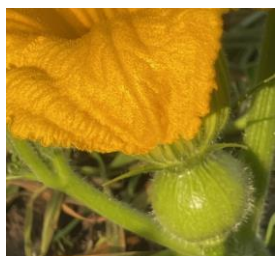
代表理事の田中氏

これまでの課題に対する対応

- ◆ 初年度は、蔓の伸長を自然任せにしたため収穫作業に苦慮。2年目から2本蔓仕立て（親蔓1本、子蔓1本）にし、同一方向に伸長させ収穫位置を一定範囲内に集約することで収穫作業を効率化。
- ◆ 品質と安定収量確保のため、人工授粉を実践。
- ◆ 主体である加工用の出荷作業は、契約先が用意した鉄コンテナに収納し集荷施設へ搬入して完了となるため、作業時間と箱代等の経費が削減。
- ◆ 地域の消費者に対しては、規格外品等をカットした商品を販売し、良食味であると一定の評価を獲得。



広めの畝幅を確保した定植作業の様子



人工授粉して実がついた様子

今後の展望等

- ◆ 高価格による取り引きを実現させるため、ブランド化を図っていく。
- ◆ JAかぼちゃ部会の発足を機に、取り組む生産者を広げ産地化を進めていく。
- ◆ 地域の消費者からの求めに対応できるような生産・販売体制を図っていく。



収穫物は鉄コンテナで搬入